

氏名	稲井良太
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第5270号
学位授与の日付	平成28年 3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目	Diagnostic value of Thallium-201 scintigraphy in differentiating malignant bone tumors from benign bone lesions (タリウムシンチグラフィを用いた悪性骨腫瘍と良性骨病変の鑑別能に関する検討)
--------	---

論文審査委員	教授 那須 保友 教授 塚原 宏一 准教授 田中 雅人
--------	-----------------------------

学位論文内容の要旨

本研究の目的は、骨病変の良悪性鑑別においてタリウムシンチグラフィの有用性を評価することである。

方法としては、2006年1月から2012年12月から治療介入前にタリウムシンチグラフィを施行した連続279例（良性228例、悪性51例）において検討を行った。核種の集積を評価する方法として、tumor-to-background contrast(TBC)と洗い出し率(WR)を用いた。統計手法としてはマンホイットニーUテストおよびROC解析を行った。

結果として、早期後期像ともに悪性病変でのTBCの値は有意に高かった。(早期像0.09 vs. 1.57、後期像0.07 vs. 0.83)しかし、WRにおいては良悪性に有意な差異はなかった。良悪性鑑別に関するTBCのcutoff値・正診率・感度・特異度は、早期像にて0.68・75%・77%・74%で、後期像にて0.38・77%・80%・76%であった。本研究において、骨病変の良悪性の鑑別にタリウムシンチグラフィが有用であると考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究はタリウムシンチグラフィを用いて、骨病変の良性、悪性の鑑別において有用か否かを検討し評価したものである。

評価手法としてtumor-to-background contrast(TBC)と洗い出し率(WR)を用いており、結果としてTBCの有用性を明らかにした。

本研究は多数症例を詳細に解析・検討しており、臨床的意義は高い。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。